



ふゆみずたんぼの時記
ふゆみずたんぼの生態
ふゆみずたんぼの環境
ふゆみずたんぼの生物
ふゆみずたんぼの文化

ふゆみずたんぼは、冬に水が枯れ、春に水が満ちる季節の移り変わりが激しい。この季節の移り変わりが、ふゆみずたんぼの生態を支えている。ふゆみずたんぼには、多くの生物が生息している。その中には、冬に水が枯れた後に生き残る生物もいる。また、春に水が満ちた後に生き残る生物もいる。ふゆみずたんぼは、生物多様性の豊かな生態系である。ふゆみずたんぼの環境は、生物多様性を支える重要な役割を果たしている。ふゆみずたんぼの生物は、環境の変化に敏感である。そのため、ふゆみずたんぼの環境を保護することは、生物多様性を保全するために不可欠である。ふゆみずたんぼの文化は、生物多様性を支える重要な役割を果たしている。ふゆみずたんぼの文化は、生物多様性を支える重要な役割を果たしている。ふゆみずたんぼの文化は、生物多様性を支える重要な役割を果たしている。

ふゆみずたんぼの時記
ふゆみずたんぼの時記
ふゆみずたんぼの時記

一 睦月

January

田んぼの生きもの

白鳥

ハチチョウ
雪は溶けて暖かくなると、田んぼに飛来し始める。雪が溶けると、水が暖かくなり、水鳥が田んぼに飛来し始める。雪が溶けると、水が暖かくなり、水鳥が田んぼに飛来し始める。

観察ポイント
白鳥の飛来は、田んぼの水が暖かくなる頃である。雪が溶けると、水が暖かくなり、水鳥が田んぼに飛来し始める。

水管裡
自然湧水
水位はあまり気にしなくともよく雪や雨で自然に湧水しておく

作業
田まわり

雑草対策
自然湧水による生きもの活性化

生きもの調査
雪が溶けてから2週間ほどは生きものがいない。最も寒い時期に入り、水鳥たちにとって最も寒い時期を迎える。ふゆみずたんぼは水温が高いので、貴重な生態環境。

生きもの調査
雪の中の生きもの調査 (イトミミズ、ユスリカを中心)
田んぼの鳥調査 (ガンカモ)
糞分析 (ガンカモ)

1月の田んぼでも雪が溶けていて、生きものたちが動き出す。サヤコトコやオオトコノカメの下で越冬し、雪が溶けると動き出す。コノハチチョウは雪が溶けると動き出す。水鳥が田んぼに飛来し始める。雪が溶けると、水が暖かくなり、水鳥が田んぼに飛来し始める。

一風の間んぼ

2007	月	火	水	木	金	土	日	月
2008	火	水	木	金	土	日	月	火
2009	木	金	土	日	月	火	水	木
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					



二 如月

February

田んぼの生きもの

ヤゴ

ヤゴ
トンボの幼虫は田んぼの水の中で生活する。雪が溶けると、水が暖かくなり、ヤゴが田んぼに飛来し始める。雪が溶けると、水が暖かくなり、ヤゴが田んぼに飛来し始める。

観察ポイント
ヤゴの飛来は、田んぼの水が暖かくなる頃である。雪が溶けると、水が暖かくなり、ヤゴが田んぼに飛来し始める。

水管裡
自然湧水
水位はあまり気にしなくともよく雪や雨で自然に湧水しておく

作業
田まわり

雑草対策
自然湧水による生きもの活性化

生きもの調査
雪が溶けてから2週間ほどは生きものがいない。最も寒い時期に入り、水鳥たちにとって最も寒い時期を迎える。ふゆみずたんぼは水温が高いので、貴重な生態環境。2月下旬にガンの春の産卵が始まる。ハチチョウの北帰りは2月後半ほど遅い。

生きもの調査
雪の中の生きもの調査 (イトミミズ、ユスリカを中心)
田んぼの鳥調査 (ガンカモ)
糞分析 (ガンカモ)

2月の田んぼ

2007	木	金	土	日	月	火	水	木
2008	金	土	日	月	火	水	木	金
2009	日	月	火	水	木	金	土	日
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29							



三 弥生 March



田んぼの生きもの 赤蛙

農事マシよみ

水管理
下知：5cmの湛水管理を田植えまで継続
(田植え前最低30日以上)

作業
上知：種別調整・放虫・湛水源・乾燥・保存
中知：陸揚池兼ヒートアップ設置・肥料魚湯の設置
下知：発酵肥料100kg散布してドライフアロで乾燥・均平・粒選り(高さ30cm)
湛水乾燥処理・深埋

アカガエル
春の農作業が始まる前に、一番早く田んぼへ入って来る。繁殖力が強い。産卵する場所が限られ、数が減ってしまった。
農事にもかかるといふかきずたんには、産卵の環境増強になっている。

観察ポイント
この時期に、水がある田んぼは限られているが、ここでは、アカガエルの産卵がよく見られる。産卵にはエネシアアカガエル、山田にはヤマアカガエルが多く、北海道にはエゾアカガエルがいる。



二層の田んぼ

雑草対策
湛水を利用した雑草管理

生きもの調査
上知：泥の中の生きもの調査
(イトミミズ、ユスリカを中心に)
中知：湛水後1週間~10日までに土壌菌によるイトミミズ・ユスリカの調査

2007	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
2008	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
2009	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	31									

田んぼの生きもの調査
2009年3月28日
29日
30日
31日
調査員：田んぼの生きもの調査員



●赤蛙
●イトミミズ
●ユスリカ

四 卯月 April

イトミミズ
春から田んぼに水を張って出てく、イトミミズの活動が活発になる。イトミミズは田んぼの上や中層で生活するので、その調査は、田んぼの水を採取して観察する。イトミミズは田んぼの水質を良く保つてくれる。イトミミズは田んぼの水質を良く保つてくれる。イトミミズは田んぼの水質を良く保つてくれる。

観察ポイント
春から田んぼを張った田んぼには、イトミミズの活動が活発になる。イトミミズは田んぼの上や中層で生活するので、その調査は、田んぼの水を採取して観察する。イトミミズは田んぼの水質を良く保つてくれる。イトミミズは田んぼの水質を良く保つてくれる。



田んぼの生きもの イトミミズ

農事マシよみ

水管理
移植前1ヶ月の湛水

作業
上知：湛水調整 (pH4.5~5.5、有機物土使用)
中知：種芽・種播・湛水 出芽 発芽2~3日目、播種量60g以下 雑草対策
下知：ペタ張りした農代ではシルバーラフは、1葉期に除去する

ユスリカ



アマガエル

雑草対策

上・中知：湛水を利用した雑草管理
下知：湛水を利用した雑草管理
イトミミズの生息数が十分でない場合は代播き
(場合によっては2回代播き)



四層の田んぼ

生きもの調査
下知：この時期イトミミズの生息数が300万匹/30aであれば雑草対策が可能に
ツルシキの運びはこの時期から始まる

生きもの調査
上知：泥の中の生きもの調査
(イトミミズ、ユスリカを中心に)
下知：泥の中の生きもの調査
(イトミミズ、ユスリカを中心に)

2007	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
2008	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
2009	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

田んぼの生きもの調査
2009年4月28日
29日
30日
調査員：田んぼの生きもの調査員



●イトミミズ
●ユスリカ

五
皋月

May



メダカ (メダ)



アキラ (メダ)

メダカ

田んぼの生きもの

メダカ・メダコ

田んぼの水が渾濁すると、魚は水中の水の中で泳ぐ生きもののがたがたになり、呼吸で使った酸素が不足し、それを補おうと水面まで上り、つぎつぎと呼吸を繰り返します。メダカや、メダコなども同様のことが起こります。

観察ポイント

田んぼの水をアップアップで見てみると、その中に小さな生き物（メダカやメダコ）がたくさんいることがわかります。メダカやメダコはメダカやメダコが産んでくる卵から、メダカやメダコになるまで成長してきます。



ミジメ



花開きの田んぼ

クワシなどの害虫を駆除する農薬や肥料の撒布に続いて、5月にはシジメが大量発生する。たいてい田んぼから出てきたメダカたちは、この時期に産卵し、卵が孵化すると、産卵から産卵までの期間は1〜2日間で、毎日産卵し、繁殖して大量のメダカやメダコが生まれる。田んぼはメダカにとって重要な場である。梅雨の明けから8月にかけては、メダカやメダコは田んぼで成長し、成熟する。メダカやメダコは田んぼで成長する。メダカやメダコは田んぼで成長する。メダカやメダコは田んぼで成長する。

農事マシよみ

- 水管理**
 - 上・中旬: 移植前1ヶ月の湛水
 - 下旬: 水位5cmを維持
- 作業**
 - 上旬: 苗の生育診断
 - 下旬: 移植 (7月6日以後)
- 雑草対策**
 - 上・中旬: 移植前1ヶ月の湛水
 - 下旬: 移植前夜 (3日以内)
 - 米ぬかや大豆澱粉ペレット散布 (0〜50kg)
 - 主にコナキ対策

生きもの調査

- 上旬: カエル*の産卵、メダカの産卵が始まる
- ツバメが渡来、クワリが産卵する時期 (観察注意)
- 中旬: シギナドリガの渡りシーズンに田んぼに立ち寄る
- 下旬: シオカラトンボの羽化が始まる、ツバメが渡来
- 下旬: キンヤンマの羽化が始まる

生きもの調査

- 上旬: 移植前10日の生きもの調査 (イトヒメズ、ユスリカを中心に)
- 中旬: 田んぼの鳥分布調査 (シギ、チドリ)
- 下旬: 田んぼの鳥分布調査 (サギ、ツバメ)

2007	火	水	木	金	土	日	月	日	月
2008									
2009	金	土	日	月	火	水	木		
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						

メダカやメダコは田んぼの水質をきれいにする働きがあります。また、メダカやメダコは田んぼの水質をきれいにする働きがあります。また、メダカやメダコは田んぼの水質をきれいにする働きがあります。



アキアカネ
アキアカネ

六
水月

June

アキアカネ

アキアカネ
一晩中水を飲んでいる間に暴風雨で水が濁ると、アキアカネは、アキアカネが濁った水の中で泳ぐ生きもののがたがたになり、呼吸で使った酸素が不足し、それを補おうと水面まで上り、つぎつぎと呼吸を繰り返します。アキアカネや、アキアカネなども同様のことが起こります。

観察ポイント

田んぼの水をアップアップで見てみると、その中に小さな生き物（アキアカネやアキアカネ）がたくさんいることがわかります。アキアカネやアキアカネはアキアカネやアキアカネが産んでくる卵から、アキアカネやアキアカネになるまで成長してきます。



アキアカネ



アキアカネ

蜻蛉

田んぼの生きもの

農事マシよみ

- 水管理**
 - 深水対策 (水位5cm以上を維持)
 - 主にヒエ対策
- 作業**
 - 上旬: 生育診断、薬剤・稲穂割合検査調査
 - 下旬: 稲穂刈り、生育診断 (稲穂)
 - 薬剤散布 (アミノ入り発酵肥料10〜15kg)

生きもの調査

- 中旬: ツバメのヒナの巣立ち (第一回目)
- 下旬: アキアカネ*の産卵発生
- 田んぼがいきもので最も多様な時期
- *アキアカネ、アキアカネ、アキアカネなど

生きもの調査

- 上・中旬: アキアカネ・イトヒメズなどの生きもの調査
- 田んぼの鳥分布調査 (サギ、ツバメ)
- (移植後10日後の稲穂検査を見るための生きもの調査)
- 下旬: 田んぼをまき込んだ生きもの調査 (田んぼから水鳥、たねなど広範囲に)
- (生物多様性を高める調査に)



六月の田んぼ

5月下旬からアキアカネの一生のほとんどは田んぼで生活しています。早稲に田んぼのヒエが混入すると、稲穂の中、田んぼに飛んでくることがあります。田んぼに飛んでくることがあります。田んぼに飛んでくることがあります。田んぼに飛んでくることがあります。田んぼに飛んでくることがあります。田んぼに飛んでくることがあります。

2007	金	土	日	月	火	水	木	金	土
2008									
2009	月	火	水	木	金	土	日		
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30							

アキアカネやアキアカネは田んぼの水質をきれいにする働きがあります。また、アキアカネやアキアカネは田んぼの水質をきれいにする働きがあります。また、アキアカネやアキアカネは田んぼの水質をきれいにする働きがあります。



アキアカネ
アキアカネ

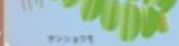
七 文 月

July

地域に危険がある水草
湖沼の水質浄化には、イチャウワウが効果的
に活用されている。多くの湖沼では、イチャウワウ
が効果的に利用されている。湖沼の水質浄化に
効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。

健康ポイント

「イチャウワウ」は湖沼の水質浄化に効果的
な水草である。多くの湖沼では、イチャウワウ
が効果的に利用されている。湖沼の水質浄化
に効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。



水草

たんぼの生きもの

水管理

中干し10日間（アカトンボの発生期に備
付け直し水管理）

作業

中耕：畦畔草刈
畦畔草刈（葉色、草丈確認）日耕不足時の
み草取り【草刈機・オリコ】の草取り

生きもの調査

7月上旬までたんぼの生きもの最も盛んな時期
中耕：サキの数が減少始める（幼虫）
下旬：カマムシが出現する
ツバメのヒナの巣立ち（第二回目）
ツバメの群れがたんぼに降りるようになる

農事マシよみ

雑草対策

コナギ・オモダカ草
コナギ草を食べる

生きもの調査

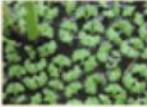
上旬：散水を含んだ生きもの調査
（畑から水路、ため池など広範囲に）
（生物多様性を調査する調査）
中旬：たんぼの鳥分調査（サキ・ツバメ）
下旬：カマムシ対策を中心とした鳥見直し調査

七月のたんぼ

農事マシよみ
農事マシよみは、イチャウワウや
ササユワウなど湖沼の水質浄化に効果的
に活用されている。湖沼の水質浄化に
効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。湖沼の水質浄化
に効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。

2007	日	月	火	水	木	金	土
2008	火	水	木	金	土	日	月
2009	水	木	金	土	日	月	火
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

たんぼ日記
観察者
観察日
観察場所
観察内容
観察結果
観察者
観察日
観察場所
観察内容
観察結果



八 葉 月

August



蜘蛛

たんぼの生きもの

農事マシよみ



クモ

水田の水質浄化に効果的である。湖沼の水質浄化
に効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。湖沼の水質浄化
に効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。

水管理

排水し水管理

作業

8月15日前後に実施

生きもの調査

上旬：カマムシが出現する
ツバメが日中に巣立ててくるようになる
中旬：湧き水調査で出てくるツバメの数を調査

生きもの調査

上・中旬：カマムシ対策を中心とした
鳥見直し調査
中旬：たんぼの鳥調査（ツバメ・サキ）



八月のたんぼ

アブツクリガエは、湖沼の水質浄化に効果的
に活用されている。湖沼の水質浄化に
効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。湖沼の水質浄化
に効果的である。この水草は、湖沼の水質浄化
に効果的に利用されている。

2007	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
2008	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
2009	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	

たんぼ日記
観察者
観察日
観察場所
観察内容
観察結果
観察者
観察日
観察場所
観察内容
観察結果



九月
長月

September

イナゴ

田んぼの生きもの カマキリ



農事しよみ

水管理
灌水

作業

下旬：刈り取り10日前まで撒き直し管理
種輪の真みが1/3になった時点で収穫
10cmの高刈りを行う

生きもの状況

上旬：イナゴ・カマキリがピークを迎える イナゴの発生
中旬：カモの群れの渡りが始まる
下旬：カンの渡りが始まる

生きもの調査

中旬：田んぼの鳥分調査（サキ）
下旬：田んぼの鳥分調査（カンカモ）
糞分析（カンカモ）

イナゴ

「稲子」とも書き、田んぼを代表する昆虫。稲の葉を食へるが、稲以外の雑草も食へる。夏村（雑草）としても利用され、イナゴは、稲の害虫としての役割が大きい。また、イナゴは、稲の葉を食へるだけでなく、稲の根を食へることもある。イナゴは、稲の葉を食へるだけでなく、稲の根を食へることもある。イナゴは、稲の葉を食へるだけでなく、稲の根を食へることもある。

観察ポイント

田んぼや畑などの雑草で暮らす。稲の葉の裏に隠れ、稲の葉を食へる。稲の葉の裏に隠れ、稲の葉を食へる。稲の葉の裏に隠れ、稲の葉を食へる。



十月の田んぼ

イナゴの仲間は、食糧増産と自然の保全を目的として導入された。導入当初は、稲の葉を食へるだけでなく、稲の根を食へることもある。イナゴは、稲の葉を食へるだけでなく、稲の根を食へることもある。イナゴは、稲の葉を食へるだけでなく、稲の根を食へることもある。

2007	土	日	月	火	水	木	金	土	日
2008	月	火	水	木	金	土	日	月	火
2009	火	水	木	金	土	日	月	火	水
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30						

たんぼ日記
2009年10月1日
田んぼの様子
イナゴの発生
カマキリの観察
カモの群れの渡り
カンの渡り



十月
神舞月

October

田んぼの生きもの 鳴千鳥



農事しよみ

水管理
灌水

作業

上旬：刈り取り10日前まで撒き直し管理
種輪の真みが1/3になった時点で収穫
10cmの高刈りを行う
下旬：葉が浮かなくなるまで流水管理し、以降自然灌水

生きもの状況

上旬：ムナタロなどのシキヤドリが渡りの途中で
田んぼを利用する
中旬：カンの群れが渡り始める
下旬：コハクチョウの渡りが始まる

生きもの調査

上旬：田んぼの鳥調査（シキ・ヤドリ）

シキ・ヤドリ

シキヤドリは、ムナタロのように田んぼの田んぼに多く見られ、主に田んぼで生活する。鳴千鳥は、田んぼに多く見られ、主に田んぼで生活する。鳴千鳥は、田んぼに多く見られ、主に田んぼで生活する。

観察ポイント

シキヤドリは、田んぼに多く見られ、主に田んぼで生活する。鳴千鳥は、田んぼに多く見られ、主に田んぼで生活する。鳴千鳥は、田んぼに多く見られ、主に田んぼで生活する。



十月の田んぼ

ムナタロの仲間は、稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。稲の葉を食へる。

2007	月	火	水	木	金	土	日	月	火
2008	水	木	金	土	日	月	火	水	木
2009	木	金	土	日	月	火	水	木	金
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31					

たんぼ日記
2009年10月1日
田んぼの様子
鳴千鳥の観察
カモの群れの渡り
カンの渡り



十一月 霜月 November



雁 田んぼの生きもの

観察ポイント
 雁は警戒心が最も強い鳥なので、遠くからずっと観察し、できるだけ対象を驚かさないよう心がける。

農事メシよみ

水管理
 上旬：灌水
 中旬：水じりを含める
 下旬：冬期湛水の開始 適量用水補充

作業
 中旬：有機資材散布 耕起

雑草対策
 中旬：耕起して、堆肥1トンまたは発酵肥料100kg、米ぬか100kgのいすれかを散布



ガン
 ガンたちは月や、雲が暮れ静かな夜の静けさを感じて、落ちる星や雲を眺めながら歩きます。その数は増えましたが、越冬地が定かでないので、ふゆみずたんぼを巡る。そのねぐらを捜索する羽目が行われている。



十一月の田んぼ

この月の下旬には雁が戻り、10万羽ほどのガンが繁殖。伊東川・内田で越冬する。4000トンの稲を食いつけて帰ってくるガンたちは、この地の稲を食いつくすだけでなく、稲の残骸を、人間の歩道の付いた田んぼから、田んぼに運ばれ、稲の残骸が田んぼに落ちるという農業のついで物も食べている。

生きもの調査
 田んぼの鳥分布調査 (ガンカモ)
 糞分析 (ガンカモ)

生きもの状況
 上旬：オオハクチョウの渡りが始まる
 下旬：ガンの渡りが終了する
 10万羽ほどのガンが繁殖地・伊豆沼・内田などに渡来・越冬する

2007	木	金	土	日	月	火	水	木	金
2008	土	日	月	火	水	木	金	土	日
2009	月	火	水	木	金	土	日	月	火
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30						



●写真
 左：オオハクチョウ
 右：ガン

たんぼ日記
 2009年11月1日
 伊豆沼で越冬するガンが観察された。観察場所は伊豆沼の畔にあり、観察時間は午前10時頃。観察者は観察者。観察場所は伊豆沼の畔にあり、観察時間は午前10時頃。観察者は観察者。

十二月 師走 December



鴨 田んぼの生きもの

マカモ



マカモ



十二月の田んぼ

しほれた産に産卵すると、ふゆみずたんぼにたもつ卵を産む。ふゆみずたんぼにたもつ卵を産む。ふゆみずたんぼにたもつ卵を産む。ふゆみずたんぼにたもつ卵を産む。

農事メシよみ

水管理
 冬期湛水

作業
 冬期湛水

雑草対策
 冬期湛水

生きもの状況

ふゆみずたんぼにカモが飛来
 それをならうイタチやキツネ、タヌキ
 目の中ふゆみずたんぼにハクチョウやガンが飛来

カモ
 カモの仲間。カモの仲間は、冬に渡り飛来する鳥類。カモの仲間は、冬に渡り飛来する鳥類。カモの仲間は、冬に渡り飛来する鳥類。

観察ポイント
 産卵するふゆみずたんぼにたもつ卵。産卵するふゆみずたんぼにたもつ卵。産卵するふゆみずたんぼにたもつ卵。

生きもの調査
 田んぼの鳥分布調査 (ガンカモ)
 糞分析 (ガンカモ)

2007	土	日	月	火	水	木	金	土	日
2008	月	火	水	木	金	土	日	月	火
2009	火	水	木	金	土	日	月	火	水
たんぼ日記	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31					



●写真
 左：マカモ
 右：オオハクチョウ

たんぼ日記
 2009年12月1日
 伊豆沼で越冬するガンが観察された。観察場所は伊豆沼の畔にあり、観察時間は午前10時頃。観察者は観察者。

